

講義 授業支援ソフトの活用と学力向上

日時 10月24日(月)

オンライン方式による

講師 みらい教育リサーチセンター 広瀬 一弥 指導主事

亀岡市確かな学力育成ビジョンから

タブレットの導入
使うことが目的になっていないか？

↓

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の改善

ICT活用

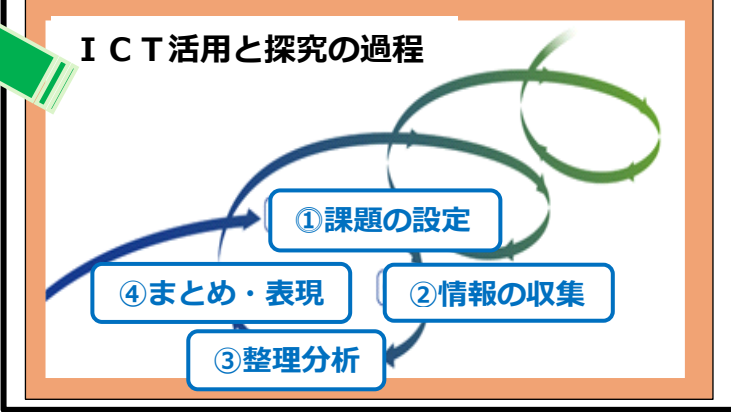
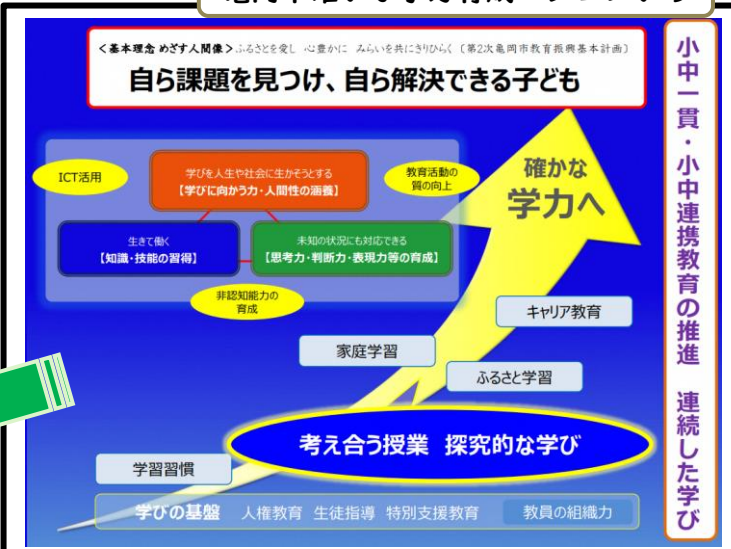
考え合う授業
探究的な学び

指導者が 児童生徒が

教える授業 ⇒ 学びとる授業

ICT活用の目的

自ら考え主体的に行動する人を育てため



<参加者の感想>

ロイロノートを活用することで、普段は発言しない児童も感想や考えを書くことがあった。少し場(やり方)を変えることで、できると感じたことがある。これは小さな一歩でしかないが、こちらの投げかけ次第で児童の思考力を高めることができると思う。児童が知識や技能を活用しながら、思考力を高めることができる授業づくりを進めていきたい。

学びとる授業を目指し、生徒が自分の考えを外に出すことで、お互いに学ぶことができると思いました。授業中に自分で調べる場面、友達と意見交換する場面、自分の考えをまとめ発表する場面などをICTの活用によって、作っていきたい。

タブレットを使うことが目的ではなく、主体的に学ぶ(生きる)子どもたちを育てるためのツールであることを再確認できた。この講座のように、短時間の研修をこまめに設定し、タイムリーに情報を共有することでICT機器の有効に活用し児童の成長につなげていけるようにしたい。

授業改善・学力向上をキーワードとしてロイロノートなどのタブレット活用にステップアップしていきたい。各担任の先生の実践交流のみでは進まないところがあるので、今回学んだことを校内で研修を行い実践につなげたい。ロイロノートで実践しながらの研修であったので、思考する過程や交流する中で考えを聞く経験することで実際の授業へのイメージを持つことができた。

今回の研修を受け、本校の教員への支援が急務だと感じた。これだけ環境が整い、新たな局面に入れた今、活用の必然性を生み出していきたい。

改めて考え合う授業や探究的な学びにつなげるために必要なものであると感じた。プレゼンテーションという、児童にとっても教師にとっても難しく感じられていたが、ロイロノートを使うことで、自分が作ったものを友達に見せながら伝えることができやすくなり、みんなで楽しみながらプレゼンテーションを取り入れた授業ができる実感。今日の学びを研修等で広げていきたい。